

令和6年度 公社等経営評価シート
(対象期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日)

概	名 称	公益財団法人宮崎県立芸術劇場			所在地	宮崎市船塚3丁目210番地		
	電話番号	0 9 8 5 - 2 8 - 3 2 1 6			ホームページ	http://www.miyazaki-ac.jp		
	設立年月日	平成5年4月1日	代表者	理事長 佐藤 寿美	県所管部・課		総合政策部 みやざき文化振興課	
	総出資額	215,797 千円	県出資額	215,797 千円	県出資比率		100.0%	
	要	設立目的	県立芸術劇場を拠点として芸術文化等多様な文化活動を総合的に促進し、文化の香り高い地域づくりと、心豊かな県民生活の創造に寄与することを目的とする。					
特記事項		県立芸術劇場の指定管理者として指定を受けている。 (指定期間：平成18年～22年度、23～27年度、28～令和2年度、3～7年度)						

		内容	令和4年度	令和5年度	令和6年度
改革 工程	①公社等のあり方 見直し	公益財団法人としての適切な運営	(計画) 公益財団法人格の保持 (公益目的事業比率等) (実績) 公益目的事業比率 91.1%	(計画) 公益財団法人格の保持 (公益目的事業比率等) (実績) 公益目的事業比率 90.1%	(計画) 公益財団法人格の保持 (公益目的事業比率等)
	②公社等の 経営見直し	経営・事業 運営改善	(計画) 文化事業基金の有効活用や新たな収入確保策を検討し、文化事業等のさらなる充実 (実績) 指定管理業務評価や利用者満足度調査等の結果を踏まえて策定した事業計画について、外部委員による「文化事業協議会」において審議した上で、27事業を実施した。	(計画) 文化事業基金の有効活用や新たな収入確保策を検討し、文化事業等のさらなる充実 (実績) 指定管理業務評価や利用者満足度調査等の結果を踏まえて策定した事業計画について、外部委員による「文化事業協議会」において審議した上で、19事業を実施した。	(計画) 文化事業基金の有効活用や新たな収入確保策を検討し、文化事業等のさらなる充実
		財務改善	(計画) 自主財源の拡充、貸館稼働率の向上 (実績) 宮崎国際音楽祭協賛金 27,579千円 貸館稼働率 60.5%	(計画) 自主財源の拡充、貸館稼働率の向上 (実績) 宮崎国際音楽祭協賛金 26,780千円 貸館稼働率 63.9%	(計画) 自主財源の拡充、貸館稼働率の向上
		組織等適正化	(計画) 職員の企画力の向上とともにサービス改善策提案を実施。 (実績) 職場内研修では、消防訓練のほか外部講師を招き不審者対応訓練、救命処置訓練及びインボイス研修を実施した。	(計画) 職員の企画力の向上とともにサービス改善策提案を実施。 (実績) 職場内研修のほか、県外の研修も一部を除いて参加した。また、県公立文化施設協議会主催の外部講師によるインボイスの研修に参加した。	(計画) 職員の企画力の向上とともにサービス改善策提案を実施
	③県と 見直し 公社等 の関係	人的支援見直し	(目標) 県派遣職員の必要性の検討 (実績) 県派遣職員が1名となっている。	(目標) 県派遣職員の必要性の検討 (実績) 県派遣職員が1名となっている。	(目標) 県派遣職員の必要性の検討
		財政支出見直し	(計画) 自主財源拡充等により財務基盤強化を図る。 (実績) 文化庁や地域創造の助成事業のほか、企業からの協賛金支援など多様な財源の確保を図った。 (助成総額 54,426千円)	(計画) 自主財源拡充等により財務基盤強化を図る。 (実績) 文化庁や地域創造の助成事業のほか、企業からの協賛金支援など多様な財源の確保を図った。 (助成総額 2,229千円)	(計画) 自主財源拡充等により財務基盤強化や県委託事業の内容検討
	④情報公開推進	ホームページでの情報公開の充実	(計画) ホームページでの情報公開の充実 (実績) ホームページのほかフェイスブック、メールマガジンを活用し、公演情報等を積極的に発信した。	(計画) ホームページでの情報公開の充実 (実績) ホームページのほかフェイスブック、メールマガジンを活用し、公演情報等を積極的に発信した。	(計画) ホームページでの情報公開の充実

県 関 与 の 状 況	人 的 支 援	(人)	令和5年度				令和6年度			
			合計	県職員	県退職者	左記以外の者	合計	県職員	県退職者	左記以外の者
		役員数	9	0	2	7	10	0	2	8
		常 勤	1	0	1	0	1	0	1	0
		非常勤	8	0	1	7	9	0	1	8
	職員数	27	1	1	25	26	1	1	24	
	財 政 支 出 等	(千円)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	(千円)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		県委託料	532,737	515,342	463,861	県借入金残高	0	0	0	
		県補助金	0	0	0	県の損失補償契約等に基づく債務残高	0	0	0	
		県交付金・負担金・出資金	0	0	0	県職員人件費(県支給分)	5,362	5,471	5,467	
その他の県からの支援等										
主 な 県 財 政 支 出 の 内 容	事業名		事業内容			令和5年度 決算額(千円)	令和6年度 予算額(千円)	種別		
	①	県立芸術劇場管理運営事業	県立芸術劇場の維持管理			331,619	340,259	指定管理料		
	②	宮崎国際音楽祭開催・準備事業	宮崎国際音楽祭の開催業務及び次年度の開催準備業務			86,075	94,308	指定管理料		
	③	県民文化振興事業	県民文化振興に係る県立芸術劇場主催事業等の実施業務			44,167	44,167	指定管理料		
	④	燃油高騰対策費	光熱費高騰に伴う県立芸術劇場の指定管理料の補填			2,000	0	指定管理料		
	⑤									

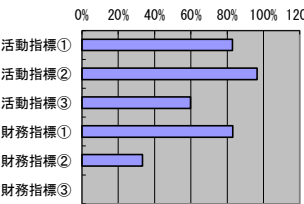
実施事業	①県立芸術劇場管理運営事業 ②宮崎国際音楽祭開催・準備事業 ③県民文化振興事業 ④友の会事業 ⑤ホール等貸出事業								
	活動指標	指標名		算式（単位）	令和5年度			令和6年度	令和7年度
					目標値	実績値	達成度(%)	目標値	目標値
		①	劇場稼働率	稼働日数／利用可能日数×100（％）	77.0	63.9	83.0%	77.0	77.0
		②	主催公演の入場者率	入場者数／キャパシティ×100（％）	70.0	67.5	96.4%	70.0	70.0
	③	友の会会員数	人数（人）	1,500	897	59.8%	1,500	1,500	
指標の設定に関する留意事項									

財務状況	正味財産増減計算書（千円）				貸借対照表（千円）			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	経常収益	721,189	740,394	574,219	資産	564,454	541,377	440,901
	経常費用	736,289	786,377	592,392	流動資産	320,079	308,894	221,261
	当期経常増減額	-15,100	-45,984	-18,173	固定資産	244,375	232,483	219,640
	経常外収益	0	0	0	負債	95,482	132,176	59,872
	経常外費用	350	0	0	流動負債	91,409	126,207	56,746
	当期経常外増減額	-350	0	0	固定負債	4,074	5,968	3,126
	当期一般正味財産増減額	-15,450	-45,984	-18,173	正味財産	468,971	409,201	381,029
	一般正味財産期首残高	244,788	229,338	183,354	指定正味財産	239,633	225,847	215,847
	一般正味財産期末残高	229,338	183,354	165,182	（うち基本財産への充当額）	30,000	30,000	30,000
	当期指定正味財産増減額	0	-13,786	-10,000	（うち特定資産への充当額）	209,633	195,847	185,847
	指定正味財産期首残高	239,633	239,633	225,847	一般正味財産	229,338	183,354	165,182
	指定正味財産期末残高	239,633	225,847	215,847	（うち基本財産への充当額）	0	0	0
	正味財産期末残高	468,971	409,201	381,029	（うち特定資産への充当額）	0	0	0

※千円未満を四捨五入して表示しているため、合計の金額と一致しない場合があります。

財務指標	指標名		算式（単位）	令和5年度			令和6年度	令和7年度
				目標値	実績値※	達成度(%)	目標値	目標値
	①	管理費比率	管理費／経常費用×100(%)	51.0	59.6	83.1%	51.0	51.0
		※ 令和5年度 実績値の算式	352,902千円／592,392千円×100					
	②	入場料収入比率	入場料収入／総事業費×100(%)	36.0	12.0	33.3%	36.0	36.0
指標の設定に関する留意事項								

直近の県監査の状況	令和5年度定期監査（令和5年10月31日）において、指摘事項はなかった。
-----------	--------------------------------------

総合評価	公社等自己評価	第四期指定管理期間の目標の一つとして掲げている「より親しみやすく」「視野を広げる」を重点課題として取り組んだ。 令和5年8月から大規模改修工事が実施され休館となった中、コンサートや演劇等の自主事業は職員が県内各地の劇場等に出向き開催したものの、入場者率、入場料収入比率は目標値を達成することができなかった。 また、再開館にむけて、利用者サービスの検証、検討を行った。 引き続き、公益性の確保と県民が親しみをもてる劇場作りを目指すとともに、各関係機関等と連携し、質の高い舞台芸術を企画・実施していきたい。 なお、組織運営については、プロパー職員を中心に、長期的な法人運営を見据えた人材育成に取り組むなど、組織体制の充実強化を図っている。				県所管部課二次評価	令和5年度は大規模改修工事に伴う休館の影響を受けながらも計画していた自主事業は全て実施することができた。 活動内容については、いずれの項目も目標値には届かなかったものの、県内各地で公演を実施することで、これまで劇場に足を運ぶ機会の少なかった県民に対しても、舞台芸術を楽しむ機会を提供することができたものと認められる。 財務内容については、自主事業における公演は全て予定通り実施したが、いずれの指標も目標値を達成できていない。特に休館の影響で入場料収入が大きく減少している。今後も、収支バランスを適正に保ち、公益性の高い事業を実施していく必要がある。 組織運営については、理事会や監査等の機能が適正に発揮されとともに、職員の能力開発も計画的に行われている。			
	評価（A：良好、B：ほぼ良好、C：やや課題あり、D：課題多い）	改革工程	活動内容	財務内容	組織運営	評価（A：良好、B：ほぼ良好、C：やや課題あり、D：課題多い）	改革工程	活動内容	財務内容	組織運営
		A	B	B	A		A	B	B	A
	目標達成度					公社等改革推進委員会三次評価	活動内容については、いずれの指標も目標値を下回っているものの、休館状態にある中、県内各地で公演を実施することにより、幅広く文化芸術に親しむ機会を確保したものとして評価できる。 財務内容については、休館の影響により、入場料収入が大幅に減少している。 再開館に向け、引き続き利用者サービスの検証等に取り組み、コロナ禍や休館により劇場から離れていた方や県内各地の公演に来場された方に訴求していくことが求められる。			